

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390800106		
法人名	株式会社 川島コーポレーション		
事業所名	瑞穂 やわらぎ苑 (2階)		
所在地	名古屋瑞穂区井の元町205番地		
自己評価作成日	平成26年 7月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2390800106-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数のグループホームなので利用者全員に目が届き個別ケアも実施出来ています。食事面においても個々の利用者から好き嫌いを聞きだし、メニューに反映させ満足のいく食事を提供しています。季節行事食や季節のイベントなども利用者の方が楽しめるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは社員寮を改造し、建物の2階部分と4階部分を使い2ユニット、12人の定員で運営している。1ユニットは6人定員でこじんまりとしており、利用者全員に目が行き届いた支援が成されている。8月に管理者が交替し、新たな管理者の下でチームワークを重視した支援を目標にしている。良い部分は継承し、改善すべきところは改善し、新管理者の下で職員も意見を出し合いながらより良いサービスの向上に努めている。
新管理者は、法人の理念は全国の事業所全体に対しての方向性を示したものととしてとらえており、支援の現場で法人理念をより実践へ活かして行くために、法人理念を受けた『瑞穂やわらぎ苑』独自の理念を作成して行く考えである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を掲げ、管理者及び職員はその実践に繋がる努力をしています。	法人の理念『利用者と家族のためにやわらぎ苑は「がんばりすぎない勇気」を応援します』を謳い、支援の現場だけでなく、エレベーターの中にも理念を張り出している。管理者はホーム独自の理念を作る考えである。	利用者・職員に対しての理念の周知に取り組んでいるが、理念実現のための更なる取組として理念を展開したホームの具体的な活動の目標を明確にする事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝隣近所の方とは日常的に挨拶し、良い関係を築いている。近所のスーパー、小売店で必要な食料品等を購入し地域の交流に努めています。	自治会の回覧板や地域在住の職員から情報を得て、秋祭り等の地域行事に参加している。散歩中に出会った人とは気軽に挨拶を交わし、地域に溶け込む様に努めている。	利用者は地域行事に参加するように努めているが、今後は地域の方々にホームに足を運んで頂けるように、イベント等の開催情報を発信して行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との通院、散歩等の実践を通じ、認知症の方の理解や支援の方法を地域の人々に目にして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては出来るだけ多くの利用者家族に参加して頂き、多くの意見からサービス向上に努めています。	いきいき支援センター職員、民生委員、利用者、家族、管理者、職員のメンバー構成で、運営推進会議を年6回開いている。新管理者は、管理者交代を機に会議の内容の充実に取り組んでいる。	運営推進会議に地域代表の参加を要請し、地域交流を進めていく上でのとっかかりになる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所とは生活保護の入居者の件で連絡を取り合い、空室の状況や利用者の生活状況などを適時報告しています。	運営推進会議にいきいき支援センター職員が参加しており、行政にホームの状況は理解されている。利用者に生活保護受給者があり、区役所担当者とは連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、研修などを通じ実践に努めている。建物の構造上、防犯及び危険防止のため、玄関施錠は止むを得ず行っています。	身体拘束廃止委員会を設置し、事業所全体で拘束のないケアに取り組んでいる。建物の構造上階段等に危険があり、安全確保の面から各フロアの入り口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、研修などを通じ実践に努めている。事業所内にて虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	名古屋市内の研修に順次参加し、学ぶ機会とは与えられています。事業所内の研修でも活用できるように話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関しては、利用者の家族が納得いくまで時間を掛けています。又、内容変更がある場合は、家族会議を開き説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の地域推進会議、年2回の家族会議及び日々の面会等において、家族の意見を施設に伝える機会は確保され、施設運営に反映させています。	運営推進会議・家族会・家族の面会と、家族の来訪の機会は多い。管理者・職員はこの貴重な機会を意見・要望を聞く機会としている。来訪の困難な家族とは電話で連絡し、関係が途切れない様に取り組んでいる。	家族アンケートの回収率から、ホームにお任せきりで関心の薄い家族の存在が目につく。支援している内容や情報を発信し、遠のいている家族との距離を縮める工夫を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、日々の申し送り、各委員会等で職員の意見、提案を施設運営に反映させています。	日常業務の中で、フロアメンバーで随時話し合いを行い、意見・提案があればケアマネジャーに報告してカンファレンスで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員のやりがい・働きがいについては、代表者へその都度提案をしている。又、給与水準、労働時間等については、適正なものとなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修会に参加する機会を設けており、事業所内でも研修を通じスキルアップや知識の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市内の研修を通じ同業者と交流する機会を作っている。管理者は、同業他社や交流サロンを通じサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者及び職員は、サービス導入時から本人の安心と要望に耳を傾け、問題があればすぐ対応できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前から、家族等からも要望等を十分聞き取りして、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援に沿えるように、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的な立場に立つこと無く、暮らしを共にする家族のように安心出来る関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族との絆を尊重しながら、家族と一緒に本人を支援する関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も含め、本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めています。	利用者の元を近隣住人が訪ねてきたり、家族と共に毎週日曜日に畑仕事に出かけ、馴染みの関係を継続している利用者もいる。入居後、家族が地域の喫茶店に連れて行き、新しい馴染みの関係も作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立を避けるよう支援に努めています。日々のレクリエーション等について職員から提案を受け、実践に結び付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合は、後日様子を伺いに赴き、その後の状態を確認しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望・意向を把握して本人本位で対応できるように工夫し、本人の立場に沿った対処に努めています。	利用者毎の担当を決め、日常のケアの中で利用者の思いを把握している。夜間帯は1対1でゆっくり向かい合い、利用者や職員とが親身に話し合い、そこで得た情報は宝物として申し送りノートで共有している。	利用者に輝いていた時代を思いださせるインパクト(当時のアルバム・新聞・雑誌・ポスター・スターの写真等)を積極的に提示し、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴や生活リズムを把握し、環境作りに活かすよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後1週間前後は、特別に様式2に詳しく記録し、職員同士の情報の共有化に努め、必要であれば家族に閲覧しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが本人、家族、職員から聞き取りをして介護プランをたてています。又、変化があればすぐにカンファレンスを開き、現状に即したプランに変更しています。	利用者の状態に変化があった時、介護計画作成担当者が直接家族に電話して状況を説明し、意見の聴き取りを行っている。それを踏まえてカンファレンスを開き、職員全体で話し合い計画に反映させている。	介護記録の記述には、実施した結果のみの記載が多い。利用者の生の言葉や様子・しぐさ等、感情の表現も記載し、介護計画の見直しにより良く反映される事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通常の記録は様式1へ記入し、特別な出来事があった場合は様式2へ記入するよう決めています。内容については、申し送りにて引き継ぎを実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化に応じ、速やかに検討して柔軟な対応や支援を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には包括職員、民生員の方に参加して頂き、協働して安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得を得た上で、地域の協力医療機関の主治医による月2回の往診が行われており、適切な医療をうけられるよう支援しています。	利用者全員が協力医療機関(内科・歯科・皮膚科)の医師をかかりつけ医として、ホームで往診を受けている。病状によっては協力医から紹介を受け、家族と職員が同行しより専門性の高い病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、職員同士が気が付いた情報を共有し、主治医の指示のもと支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院については、ソーシャルワーカーと日頃から訪問し、情報を共有化しています。退院時の受け入れ体制も、入院時から相談し、退院後すぐに受け入れができるような関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族等と早い段階から話し合いを行い、主治医の意見も取り入れ事業所として出来るサービスを説明して支援しています。	これまで『看取り』の経験は無かったが、今後の課題として受け止めている。状態変化時には、利用者・家族の意向を再確認しながら、家族・主治医・職員が連携し、『安心・納得』が得られる対応をしていく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は、研修の中に組み込み急変時の対応が出来るよう訓練を行っている。緊急事故等については、緊急連絡網等で対応できるよう実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。消防署を通じた災害対策は出来ているが、地域住民の協力体制までは出来ていない。	夜間想定を含め、年2回避難訓練を行なっている。ホームは4階建てであり、上の階から下の階(4F⇒3Fへ、2F⇒1Fへ)への移動訓練を行なっている。スプリンクラーを設置し、非常飲食は1週間分を備蓄している。	夜間の災害発生時には地域の方々の協力が不可欠である。運営推進会議の議題として取り上げ、地域の協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心やプライバシーを損なわないような声かけや言葉づかいで対応しています。	利用者が心地よく感じる声かけをし、利用者の苗字にさんづけで呼んでいる。中には親しみを込めて『お父さん』と呼ばれている利用者もいる。職員間の会話では、利用者を符号で呼びプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴など本人の思いや希望を表現しやすいよう支援し、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先すること無く、一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望に沿って日々過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては、季節毎に家族に協力して頂き、利用者が気に入った物を着られるよう支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からそれぞれ好きな食べ物を聞き取り、それをメニューに反映させています。又、出来ることは一緒に行っています。	利用者の意向を反映したメニュー作りを心がけ、調理は各ユニットで分担して行っている。利用者の状態に合わせて席替えをしたり、誕生日にはケーキでお祝いしたりと、食事が楽しめる様に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録をとり、少ない場合は医師の指示を仰ぎ、栄養や水分量確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保ち、誤嚥防止のために、毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレに座って頂き、排泄することをお願いしています。	各居室にトイレがあり、排泄パターンの把握によって適切な声かけや自室への誘導を行っている。入院先から退院後、状態改善するように声かけを続け、排泄自立した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因とその影響を理解し、個々の排便状態を把握し、飲食物の工夫や訪問マッサージの活用等で予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調・気分・状況に応じ、いつでも入浴できるよう支援しています。	原則週2回の入浴で、その時の気分・体調で拒否もある。無理強いせずに時間を置き、職員を変えて呼びかけている。提携医の往診時に『入らないと・・・』言ってもらい、医師の往診前に入る様になった例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、日中休息の時間を設け、夜間には安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のカルテは個々に管理し、ファイルに保存しています。職員がいつでも見れる状態になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、掃除のお手伝いとか料理のお手伝い等をして頂き、気分転換になるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出を希望される利用者はほとんどいないので、散歩等で支援しています。	日常的に、近隣の公園や川沿いの土手を散策に出かけている。外出を好まない利用者にも声かけし、ホーム前の駐車場で外気浴出来る様に支援している。管理者は紅葉狩り等、季節に合わせたイベント外出を増やしていく考えである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、紛失の恐れがある為、原則として所持はご遠慮頂いていますが、3千円程度は持たれており、一緒に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に許可を得て、定期的に電話などで家族や友人とお話して頂く時間を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に関しては、混乱をまねくような刺激がないよう装飾にも配慮し、季節感をとり入れたものにする等の工夫をしています。	対面キッチンを備えた食堂兼リビングはこじんまりとしており、家庭的で見守りがし易いレイアウトである。家族の訪問が重なったり、静かな雰囲気を求める利用者・家族のため、普段使われていない別階のフロアを利用する事もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で交流出来るような場所を設け、又、一人になれる離れた場所も確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者の家族にお願いして、慣れ親しんだ物を持ちこんで頂き、居心地よく過ごせるようにしています。	各居室に洗面台、トイレが完備されている。収納庫が設置されている事から居室内は整理整頓が行き届いている。家族が寛ぐ椅子・テレビが持ち込まれ、家族からのお祝い花できれいに飾られた居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、一人ひとりの理解力や残存能力を活かして、安全で出来るだけ自立した生活が送れるような環境作りを工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390800106		
法人名	株式会社 川島コーポレーション		
事業所名	瑞穂 やわらぎ苑 (4階)		
所在地	名古屋市瑞穂区井の元町205番地		
自己評価作成日	平成26年7月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosovoCd=2390800106-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数のグループホームなので利用者全員に目が届き個別ケアも実施出来ています。食事面においても個々の利用者から好き嫌いを聞きだし、メニューに反映させ満足のいく食事を提供しています。季節行事食や季節のイベントなども利用者の方が楽しめるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を掲げ、管理者及び職員はその実践に繋がる努力をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝隣近所の方とは日常的に挨拶し、良い関係を築いている。近所のスーパー、小売店で必要な食料品等を購入し地域の交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との通院、散歩等の実践を通じ、認知症の方の理解や支援の方法を地域の人々に目にして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては出来るだけ多くの利用者家族に参加して頂き、多くの意見からサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所とは生活保護の入居者の件で連絡を取り合い、空室の状況や利用者の生活状況などを適時報告しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、研修などを通じ実践に努めている。建物の構造上、防犯及び危険防止のため、玄関施錠は止むを得ず行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、研修などを通じ実践に努めている。事業所内にて虐待が見過ごされることがないよう注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	名古屋市内の研修に順次参加し、学ぶ機会は与えられています。事業所内の研修でも活用できるように話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関しては、利用者の家族が納得いくまで時間を掛けています。又、内容変更がある場合は、家族会議を開き説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の地域推進会議、年2回の家族会議及び日々の面会等において、家族の意見を施設に伝える機会は確保され、施設運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、日々の申し送り、各委員会等で職員の意見、提案を施設運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員のやりがい・働きがいについては、代表者へその都度提案をしている。又、給与水準、労働時間等については、適正なものとなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修会に参加する機会を設けており、事業所内でも研修を通じスキルアップや知識の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市内の研修を通じ同業者と交流する機会を作っている。管理者は、同業他社や交流サロンを通じサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者及び職員は、サービス導入時から本人の安心と要望に耳を傾け、問題があればすぐ対応できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前から、家族等からも要望等を十分聞き取りして、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援に沿えるように、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的な立場に立つこと無く、暮らしを共にする家族のように安心出来る関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族との絆を尊重しながら、家族と一緒に本人を支援する関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も含め、本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立を避けるよう支援に努めています。日々のレクリエーション等について職員から提案を受け、実践に結び付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合は、後日様子を伺いに赴き、その後の状態を確認しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望・意向を把握して本人本位で対応できるように工夫し、本人の立場に沿った対処に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴や生活リズムを把握し、環境作りに活かすよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後1週間前後は、特別に様式2に詳しく記録し、職員同士の情報の共有化に努め、必要であれば家族に閲覧しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが本人、家族、職員から聞き取りをして介護プランをたてています。又、変化があればすぐにカンファレンスを開き、現状に即したプランに変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通常の記録は様式1へ記入し、特別な出来事があった場合は様式2へ記入するよう決めています。内容については、申し送りにて引き継ぎを実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化に応じ、速やかに検討して柔軟な対応や支援を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には包括職員、民生員の方に参加して頂き、協働して安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得を得た上で、地域の協力医療機関の主治医による月2回の往診が行われており、適切な医療をうけられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、職員同士が気が付いた情報を共有し、主治医の指示のもと支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院については、ソーシャルワーカーと日頃から訪問し、情報を共有化しています。退院時の受け入れ体制も、入院時から相談し、退院後すぐに受け入れができるような関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族等と早い段階から話し合いを行い、主治医の意見も取り入れ事業所として出来るサービスを説明して支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は、研修の中に組み込み急変時の対応が出来るよう訓練を行っている。緊急事故等については、緊急連絡網等で対応できるよう実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。消防署を通じた災害対策は出来ているが、地域住民の協力体制までは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心やプライバシーを損ねないような声かけや言葉づかいで対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴など本人の思いや希望を表現しやすいよう支援し、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先すること無く、一人ひとりのペースを大切に、本人の希望に沿って日々過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては、季節毎に家族に協力して頂き、利用者が気に入った物を着られるよう支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からそれぞれ好きな食べ物を聞き取り、それをメニューに反映させています。又、出来ることは一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録をとり、少ない場合は医師の指示を仰ぎ、栄養や水分量確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保ち、誤嚥防止のために、毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレに座って頂き、排泄することをお願いしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因とその影響を理解し、個々の排便状態を把握し、飲食物の工夫や訪問マッサージの活用等で予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調・気分・状況に応じ、いつでも入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、日中休息の時間を設け、夜間には安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のカルテは個々に管理し、ファイルに保存しています。職員がいつでも見れる状態になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、掃除のお手伝いとか料理のお手伝い等をして頂き、気分転換になるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出を希望される利用者はほとんどいないので、散歩等で支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、紛失の恐れがある為、原則として所持はご遠慮頂いていますが、3千円程度は持たれており、一緒に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に許可を得て、定期的に電話などで家族や友人とお話しして頂く時間を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に関しては、混乱をまねくような刺激がないよう装飾にも配慮し、季節感をとり入れたものにする等の工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で交流出来るような場所を設け、又、一人になれる離れた場所も確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者の家族にお願いして、慣れ親しんだ物を持ちこんで頂き、居心地よく過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、一人ひとりの理解力や残存能力を活かして、安全で出来るだけ自立した生活が送れるような環境作りを工夫しています。		